



愛隣幼稚園..... 園だより 12. 12月号

神様が共にいてくださいます

あっという間の1年です。「あけましておめでとう！」と挨拶したのはついこの間のように感じるのに、もうクリスマスがやってきます。1回目のアドベント礼拝(※アドベントはイエス・キリストの降誕を待ち望む期間)の日に、子どもたちに「クリスマスってどんな日かなあ」と聞いてみました。やはり、最初に聞こえてきたのは小さい組の、「サンタさんにプレゼントもらう！」の声でした。(もちろん大きい組は「イエス様が生まれた日」と答えてくれましたよ。)日本人は世界中の様々な習慣やお祭りを年中行事に取り入れて、生活の楽しみに加えています。最近ではハロウィンの仮装で街を歩く人やパーティーを開く人がとても多くなりました。その起源や、信仰については話題にならず、それは楽しいイベントとして商業主義と結びつき日本中に広まっています。「節操がない」と言ったら「そこまでこだわるか?!」と言われてしまいそうです。でも当たり前ですが、愛隣幼稚園の『クリスマス』は“サンタさんにプレゼントをもらう日”ではなく、“神様が私たちのために御子をこの世におくられた日”“イエス様のお誕生をお祝いする日”です。

何故、神様は御子をこの世におくられたのでしょうか。それは「インマヌエル 一神がわれらと共にいてくださる」というメッセージを私たちに伝えるためでした。大いなる存在を忘れ、自分の中を自分のことだけでいかにしていく私たちのために御子をおくってくださったのです。一愛する子を私たちのために地上に送られた一ここにそれほどまでに私たちを愛して下さった神様の“愛”があります。ですから、私たちはこの日を感謝し、イエス様の誕生を祝うのです。

礼拝のお話をさせていただくようになってそろそろ4年になろうとしています。神様からのメッセージが少しでも子どもたちに届くようにと願いながらお話をしています。4年前、お話を始めた頃、不安に思っていたことがあります。「子どもたちって神様を信じているんだろうか・・・」それは、お話を数回させていただいただけで払拭されました。信じるも信じないもないのです。子どもたちには、神様はいて当り前の存在ということがすぐにわかりました。子どもたちの様々な姿を目の当たりにする時に、私たちは“神様が子どもたちと共にいて下さる”ことを知るのです。ながれぼしの男の子たちが矢内先生と柿を採っていると、ばら組の前からお芋を焼くいい匂いがしてきました。それを見つけた彼らは、矢内先生を残してお芋をもらいに飛んで行きました。すると、お芋をもらって戻ってきた彼らは、次々と小さなお芋を半分にして矢内先生に分けてくれたそうです。そういえばたんぼ組がコーンスープを作っていた時も、私が「いい匂い、おいしそう」というと、「お弁当のとき、たんぼ組にきたら分けてあげるよ」と小さい人たちも嬉しそうに言ってくれました。食べ物の話ばかりになってしまいましたが、愛隣の子もたちは楽しいこと、嬉しいことは皆で分け合うと、もっと楽しくなると誰もが知っています。運動会のリレー。ながれぼし組は当日も含めて1度も仲間がそろって走ることができませんでした。それで運動会が終わってからもうリレーをしました。全員で走ることができるまで……。初めてみんなで走ることができた日、それは青・白どちらが勝っても嬉しい日になりました。また、誰でも自分の気持ちが言葉でうまく表現できない時があります。乱暴な言動になって仲間たちを困らせる時があります。愛隣の仲間たちは大きい組にもなれば、自分が痛い思いをしても一生懸命、仲間のその言動を止めようとしています。どうにもならない気持ちが収まるまで、そんな仲間のことをじっと待ちます。大切な仲間の一人だからです。愛隣の子もたちは仲間を待ちます。仲間の居場所は仲間の中にいつも保障されているのです。誰もお前はいらないと言うことはありません。『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』と仰った神様がいつも子どもたちと共にいてくださることを感じます。知恵を得て、力を得て、自信を得て子どもたちも大人になっていきます。その日にもどうか神様が共にいてくださることを忘れることがありませんように。また、弱い自分に気付いたその日にも、神様が共にいてくださることを思い出せますように。